【山崎名誉主宰の俳句】

さくら散る

山崎　聰

立春を過ぎ朴の葉のまるいところ

海よりも山よりもなお春空よ

さくら散って見えるものみな眩しい日

高原の牧場遠く山ざくら

ざわざわとかついっせいにさくら散る

人いつも不意に奈落へ春の夜

さくら散ってなにも見えなくなりにけり

晩春というさびしい日のコーヒー

大きな空にちぎれ雲飛びみどりの日

青空はいつも遠くに朴の花